

分科会A-1

オンライン授業における課題

オンデマンド授業や対面とのハイブリッド授業などを実施するにあたり、さまざまな課題に直面しています。時間割の工夫、実験、実習等の対応、各種機材の導入、学生の受講環境整備等、各加盟校が抱える課題と対策について情報提供いただきます。

堀江 育也（札幌大学・地域共創学群）

ハイフレックス授業の実施における課題

2020年度、本学の遠隔授業は、実施方法、使用システムについては、おおよそすべての科目で統一できた。2021年度からは、コロナウィルスに対する、具体的な感染対策ができるようになってきたことで、対面授業もできるようになった。しかし、大人数の講義や、学生の対面授業に対する不安等を解消するためには、現在の対面授業、遠隔授業に加え、ハイフレックス型授業の導入が考えられる。本学でのハイフレックス型授業の課題、問題点などについて本報告で行います。

山崎 耕太（学校法人酪農学園 情報システム課）

Moodle・GoogleWorkspaceを利用した遠隔授業の実施

本学ではコロナ禍においてMoodleとGoogle Workspace(旧G Suite)を利用したオンデマンド授業を全学的に行ってきた。本学では以前からMoodleの導入・利用を進めていたが、大規模な利用に伴ってサーバの新規設置、学生・教員向けマニュアル等の作成、個別サポート対応等が必要となった。これらの事例、機器・人的資源の配置状況、およびこれらを踏まえたハイブリッド授業の展開に向けての課題・対応策等を報告する。

小國 大樹、小林 彩乃、乙坂 良太（北星学園大学）

北星学園大学における授業支援体制と今後の課題～教員・職員・学生が協働する「授業サポートプロジェクトチーム」とは～

今年度は、対面・非対面（遠隔）・ハイブリッド型など様々な形態で授業が実施され、学生が授業に参加する方法も多様化した。そのような状況下で、学生の相談窓口や、多様な環境下の学生に対応するため教員への授業支援等が必要だった。そこで教員・職員・学生（北星Student Staff）が協働する「授業サポートプロジェクトチーム」を立ち上げ、教員と学生それぞれに支援を行った。本発表ではチームが取り組んだ活動や、そこから見えた課題を提示し、今後求められる「授業内容の情報保障」はどのようにあるべきか提案したい。

分科会A-2

オンライン授業における課題

オンデマンド授業や対面とのハイブリッド授業などを実施するにあたり、さまざまな課題に直面しています。時間割の工夫、実験、実習等の対応、各種機材の導入、学生の受講環境整備等、各加盟校が抱える課題と対策について情報提供いただきます。

森口 眞衣（日本医療大学 保健医療学部 看護学科）

環境差対応

- ・学外実習に行けず、学内実習に切り替えざるをえない状況下の、講義方法・課題について
- ・オンライン講義に対する教員、学生のツール熟知度について
- ・キャンパス移転に際しての、大学の通信環境について

大野 和美（天使大学看護栄養学部看護学科）

臨地実習科目を遠隔プログラムで展開する場合の課題と工夫

看護専門職としての思考過程・技術・態度の修得には、臨地実習におけるトレーニングは必須のものである。しかしながら、感染予防の観点から、昨年度より病院等の現場での実習は大きく制限されることとなり、遠隔プログラムによる学習の展開を余儀なくされた。教員が患者の事例を作成し活用したが、意図的情報収集のトレーニングには課題が残った。一方、Zoomを介して患者役の教員に対し退院指導を行う実演は、実習に近い学習が可能であった。

井上 裕靖（旭川医科大学 教育センター）

旭川医科大学におけるオンライン授業実施の問題点

旭川医科大学ではLMSによるe-Learningをベースとしたオンライン授業からZoomによる講義のLive配信や、分散登校による対面授業を併用し、感染状況に合わせて柔軟に対応してきた。

分散登校による対面授業では、講義室・実習室の収容人数の問題から、登校者数の制限や実習・演習の時間帯をずらすといった感染対策の施行により、学習機会の減少という問題が生じている。

また、e-Learningをベースとしたオンライン授業の併用により、学生の講義への参加（分散登校やZoomのLive講義）が激減している。

こうした状況について、旭川医大での対策の一部を紹介しながら、皆様と解決策について考えていきたい。

分科会B-1

オンライン授業に対する教員・学生の反応

オンライン授業の導入に伴い、教員や学生にさまざまなアンケート調査を行った加盟校は多いと思います。オンライン授業の導入に対する教員や学生の反応を情報提供いただき、そこから今後の授業の方向性、課題等について議論します。

西出 崇（小樽商科大学教学IR室）

授業のオンライン化による成績への影響とその要因

新型コロナウイルス感染症の流行にともない、小樽商科大学では2020年度の前期は全ての授業が、後期も一部を除き大部分の授業がオンラインで実施された。十分な準備期間がないまま緊急避難的に授業方法が変更されたため教育への影響が懸念されるなか、教学IRでは危機対策本部の指示により成績への影響やその要因について検証した。ここでは本学で行ったオンライン授業の成果や課題の検証事例について報告する。

辻 義人（公立はこだて未来大学）

数学導入教育のオンライン化の実践を通じた履修傾向の検討

2020年度前期より、初年次生を対象とした数学科目の導入教育について、オンライン配信を開始した。ここで、過年度における対面形式での数学導入教育の効果に注目し比較を行った。その結果、オンラインでの導入教育について、対面授業と同様の理解度向上が認められた。また、教室収容人数の制限がなかったため、過年度と比較して、多くの学生が導入教育を受講した。導入授業のオンライン化を通して、より多くの学生に、効果的な学び直しの機会を与えることができたと考えられる。

山田 勅之（北海商科大学 観光産業学科）

双方向性を持たせたオンライン授業の模索—レポート、フィードバック、評価

オンライン授業導入に際し、最も意識したのが、オンライン上でいかに「対面授業」と変わらない質を創り出すかであった。とりわけ教員・学生間のやりとりをいかに創り出すか、試行錯誤を重ねてきた。本発表では、「レポート」「フィードバック」「評価」から、これまで実施してきたオンライン講義の一端とそれに対する学生の反応を紹介する。

分科会B-2

オンライン授業に対する教員・学生の反応

オンライン授業の導入に伴い、教員や学生にさまざまなアンケート調査を行った加盟校は多いと思います。オンライン授業の導入に対する教員や学生の反応を情報提供いただき、そこから今後の授業の方向性、課題等について議論します。

山本 堅一（北海道大学 高等教育推進機構）

北大の学生、教員はオンライン授業をどう捉えたか

報告者の個人的な見解としては、オンラインを活用した授業の方が対面だけの授業よりも様々な面で良く、今後はいかにオンラインを活用していくかを検討していくべきであると考えている。

2020年度に本学の学生、教員を対象に行ったオンライン授業に関するアンケート結果を紹介しながら、現状と今後の課題等について報告し、参加者の皆様と意見を交換したい。

松澤 衛（北翔大学）

教員の声を直接聞く

本学では、去年の12月よりお昼休みを利用したICT相談会を開催しております。Teamsを利用し遠隔で教職員に向け、ICTの活用や、利用方法などの相談を現在まで、約120回ほど行っています。

FD支援委員長である私が担当し、遠隔授業における機材等やMicrosoft365の利用方法などの相談を中心に各先生が感じる問題点、遠隔授業での学生の様子などをざっくりばらんに情報共有をしています。

増田 貴宏（北海道科学大学 工学部 電気電子工学科）

遠隔授業に対する北海道科学大学の学生・教員の反応について

2020年度と2021年度前期において遠隔授業、遠隔対面併用など、対面とは異なる形式で行われた授業に関して、本学の学生・教員の反応を報告する予定です。学生については2020年度の「遠隔授業に関するアンケート」、毎学期実施する「授業改善に関するアンケート」「学生FD委員に対する聞き取り調査」などの結果を、教員については個別の聞き取り調査（+実施予定の教員向け調査も含められれば）の結果をご報告する予定です。

分科会C-1

コロナ下における学生支援／留学，留学生への対応

これまでのような学生生活を送れずにさまざまな苦勞を抱えている学生のメンタルヘルスケア，物的支援や金銭的支援等，加盟校が行った学生支援について，また，海外との往来が自由にできない状況において，これから留学する／来る学生への対応，（国外や日本に）留学中の学生に対する対応について情報提供いたします。

森口 眞衣（日本医療大学 保健医療学部 看護学科）

経済的修学支援

・国の修学支援新制度および新型コロナウイルス緊急給付金を受けていない学生で、家計支持者の家計急変やアルバイト等の収入が減少した学生へ、減額100,000円を2020年下期の授業料に充当を行った（上限100人）

榊原 佐和子（北海道大学 北海道大学学生相談総合センター）

専門部署によるコロナ禍における学生支援（学生相談、障害学生支援等）

本学の学生支援専門部署として、なんでも相談のできる「学生相談室」、障害のある学生をサポートする「アクセシビリティ支援室」、本学で学ぶ留学生や海外留学をする学生の相談に応じる「留学生相談室」から成る「学生相談総合センター」（以下センター）があります。コロナ禍となり、センターではオンラインによる面談を行うなどこれまでの支援とは異なる支援を行っています。今回、センターのコロナ禍での支援体制や利用学生の様子など、支援の実際をお伝えいたします。

宮武 真知（北海道科学大学 学務部 学生課）

コロナ禍における北海道科学大学の学生支援

2020年に生じた新型コロナウイルス感染症の影響は、2021年度においても大学教育や学生生活に大きな影響を与えている。感染拡大を防ぎながら、教育や学生支援をどのように進めるかが今後も課題となる。学生が『充実した学生生活を送るために必要な支援は何か』ということを考え、試行錯誤しながら実行した、経済的支援や物的支援を始めとした、北海道科学大学の学生支援の实情を報告する。

分科会C-2

コロナ下における学生支援／留学，留学生への対応

これまでのような学生生活を送れずにさまざまな苦勞を抱えている学生のメンタルヘルスケア，物的支援や金銭的支援等，加盟校が行った学生支援について，また，海外との往来が自由にできない状況において，これから留学する／来る学生への対応，（国外や日本に）留学中の学生に対する対応について情報提供いただきます。

瀧元 誠樹（札幌大学 地域共創学群）

札幌大学の新型コロナウイルス感染症対策と学生支援

札幌大学で取り組んできました新型コロナウイルス感染症対策と学生支援について概観いたします。主に、2020年度から2021年度春学期までの「学校法人札幌大学新型コロナウイルス感染症緊急総合対策」と課外活動対応、2020年度の学生相談室によるメンタルヘルスケアの3点についてご報告いたします。

高橋 あすみ，廣川 和貴（北星学園大学 学習サポートセンター）

コロナ下の学習支援とピア・サポーターの組織運営

コロナ下では、北星学園大学学習サポートデスクの提供する学習支援の継続が危ぶまれるとともに、組織している北星ピア・サポーターも対面活動の制限を余儀なくされた。そのため、学生の自主学習や学業困難に対する援助要請、正課外活動の機会が失われないように、大学の学習支援システムやZoom、Slackなどオンラインを活用した支援を試みた。本報告ではコロナ下の学習支援と学生団体の組織運営というふたつの観点で、実践内容と今後の展望を報告する。

鈴木 衛（北見工業大学 国際交流センター）

北見工業大学における国際交流の現状について

今年度に入り、本学ではアフターコロナを見据えた取り組みを徐々に開始している。昨年度は既存の国際交流ができず、守りの一年に徹したことが、現在の交流に活かされている側面もある。地域に根差した取り組みや海外の協定校との交流を今後さらに活発化することを目指し、今年度前半は、新たな取り組みを導入しながら国際交流活動を展開してきた。攻めに転じた本学の国際交流について紹介する。